

保険の ひま

ボランティア活動保険等の補償制度は、社会福祉協議会およびその構成員・会員ならびに社会福祉協議会が運営するボランティア・市民活動センターなどに登録されているボランティア・ボランティアグループ・団体が加入対象です。

平成29年度 ボランティア保険の加入手続きはお済みですか？

全社協の「ボランティア活動保険」「ボランティア行事用保険」「福祉サービス総合補償」「送迎サービス補償」など平成28年度のご加入契約は、すべて平成29年3月31日をもって補償期間が終了します。平成29年度の保険加入につきましては加入漏れのないように、お早めに最寄りの社会福祉協議会にて加入手続きを完了してください。



安全第一

ボランティア活動の事故防止・軽減のための10大ポイント

1. 体調が悪い時は決して無理をしないこと。

健康と体調は全ての基本です。体調が悪いときは活動を見合わせることも重要です。「無理をする」＝「自らケガをしに行く」、「他人に迷惑をかける可能性がある」と認識しましょう。

2. 情報収集(事前の安全確認と日常点検)をしましょう。

活動場所や活動内容、往復途上の交通状況などの情報収集は、参加される活動のリスクを事前に予知するための基本です。収集した情報は、事故の未然防止や軽減に大いに役立ちます。



3. 活動に適した服装を！

活動される内容、季節、天候などを照らし合わせ、適した服装で活動することが事故防止の基本です。
帽子→熱中症予防。履きなれた運動靴→動きやすく、転倒防止。
軍手→切傷など軽微な事故の防止。

4. 自宅を出てから帰るまでが活動です。焦らず、気を抜かないこと。

集合時間に遅れそうなときは、連絡の上、焦らずに活動場所に向かいましょう。焦ると周りが見えなくなります。また、活動を終えてもホッとして気を抜かないこと。帰り道での交通事故も多く発生しています。

5. 活動前には準備運動、ストレッチを！

ボランティア活動はスポーツと同じです。急激に動くと思わぬケガをすることがあります。ストレッチなどで体を十分にほぐし、あたためてから活動を開始しましょう。

6. 責任者の説明にはしっかり耳を傾けること。

自分自身であらかじめ気づいていなかった危険を確認する機会です。事前の説明にはしっかりと耳を傾けましょう。また、勝手な思い込みや独断は禁物です。

7. 疲れを感じたら遠慮せずに休憩を。 随時、水分補給をしましょう。

疲れたときは、注意力が散漫になり、慎重な活動ができなくなる可能性が高くなります。「疲れた」と実感する前に、「ちょっと疲れたな」と感じた時には、周囲の人に遠慮することなく休憩をとりましょう。

8. 過信は禁物。今の自分にできることをあらかじめ認識しましょう。

「以前はこのくらいできたから今でも大丈夫」は危険です。今の自分にできることを自ら認識して、他のボランティアの方々と協力して活動しましょう。このくらいやっても大丈夫、といった自己判断、過信は禁物です。

9. 特に足元には注意！（転倒事故の防止）

足元への注意は事故防止の基本です。実際に発生している事故全体の約70%は転倒事故です。屋内・屋外を問わず、足元には十分注意を払って転倒事故を未然に防ぎましょう。



10. 周囲の方々と協力して、情報の共有を図りましょう。

ボランティア活動は他の活動参加者や利用者と一緒に協力して行うものであることを認識しましょう。(例えば、重いものは複数人で運ぶ、脚立に乗るなど足元が不安定な場合は支えてもらおう、危険な場所の情報はお互いに共有する等々)活動中は、お互いに声を掛け合うことで、突発的な危険を防止することにもつながります。

ボランティア活動保険等についてのお問合せは、株式会社 福祉保険サービスまでどうぞ。

TEL/03-3581-4667 FAX/03-3581-4763 URL <http://www.fukushihoken.co.jp>